

JMT 環境報告書 2024



目次

		ページ
1	はじめに	
	企業理念・経営理念・CSR基本方針・SDGs取組方針	2
	トラックターミナルの社会的環境貢献	3
2	環境対策	
	太陽光発電設備の設置	4
	CNGエコ・ステーションの設置	6
	省エネ機器の導入と計画	7
	グリーン購入法・FSC認証・間伐材活用素材の採用	8
	脱炭素施策	9
3	環境活動	
	ゴミ(一般廃棄物)の減量化と再利用	10
	東京水道～企業の森「JMTの森」保全活動	11
	節電・アイドリングストップの啓発	13
	清掃活動	14
	エコキャップの回収	15
	使用済みクリアホルダーの回収	16
	コンタクトレンズ空ケースの回収	17
	ペーパーレス化の促進	18
4	新しい取組み	
	水素ステーションの設置	19
5	資料	
	CASBEE Aランクの取得	20
	環境省「COOL CHOICE」への賛同	21
	省エネ法（エネルギー使用合理化等に関する法律）	22
	東京都環境確保条例（都民の健康と安全を確保する環境に関する条例）	22
	JMT近年の環境保護への取組み ～ハード面～	23
	JMT近年の環境保護への取組み ～ソフト面～	24

1. はじめに

2. 環境対策

3. 環境活動

4. 新しい取組み

5. 資料

企業理念・経営理念・CSR基本方針・SDGs取組方針

企業理念

物流の合理化、道路交通の円滑化、
都市機能の向上に資する企業であり続ける

経営理念

トラックターミナルを中心に
質の高い物流施設とサービスを提供し豊かな社会の実現に貢献する

CSR基本方針（環境保全）

環境との調和が社会の一員たる企業の重要な責務であることを認識し、
企業活動と地球環境の調和を目指し、事業活動にかかわる環境関連法規や
環境上の規範を遵守することはもとより、省エネ機器の導入や環境保護の
啓発活動など、環境に配慮したトラックターミナルの整備をすすめる。

また、社会や地域の環境保全活動にも積極的に取り組む。

SDGs取組方針

持続可能な経営基盤を維持していくために、「環境対策」を重要課題と
位置付け、当社のSDGsの取組みをESGのカテゴリーにて整理した、
「ESG/SDGsマトリックス」を作成し、具体的な取組みを継続していく。



トラックターミナルの社会的環境貢献

日々運び込まれる大量の貨物を行き先方面別に積み替える施設がトラックターミナルです。当社が運営する都内4カ所のトラックターミナルは「物流の合理化」「道路交通の円滑化」といった機能を発揮することで環境負荷の低減に寄与しております。

物流の合理化

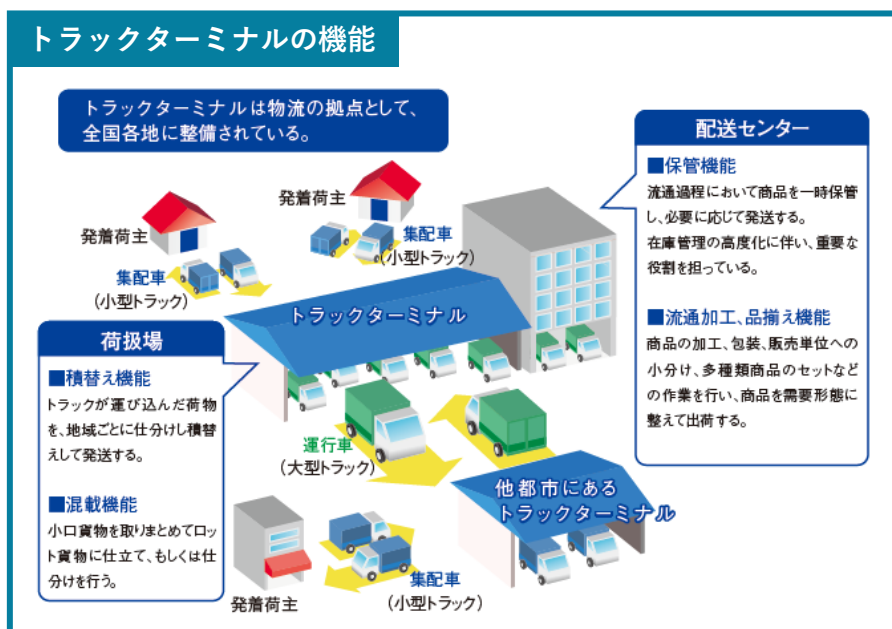
全国各地から大量輸送されてきた貨物を都内のエリア別に仕分けして発送する配送機能と、都内で発生した貨物を集め、全国各地に向けて仕分けし発送する集荷機能を兼ね備えた荷扱場(バース)や、貨物の一時保管・流通加工などを行う配送センター等の物流拠点をトラックターミナルに集約することで、物流の合理化を図り、環境負荷の低減に貢献しております。

道路交通の円滑化

都市部の小規模ターミナルを集約し、再配置することで都市内の重複・交錯輸送や中継輸送を減少させるなど交通混雑の緩和と環境問題の改善に貢献しております。

都市機能の向上

全国各地からの路線網が集約することで、都心部を通過せずに地方から地方へと輸送される貨物の中継基地として活用されるなど、トラック輸送の合理化及び都市環境の向上に寄与しております。



太陽光発電設備の設置

再生可能エネルギーの積極的な活用として、太陽光発電設備を設置しております。

2010年に京浜トラックターミナル、2013年に板橋・足立トラックターミナル、2015年に葛西トラックターミナルに設置を行い、全ターミナルにおいて太陽光発電設備を設置し、発電を行っております。それ以降も、各トラックターミナルで適宜増設をしております。

直近では、2023年5月に供用開始した板橋トラックターミナル新6号棟にも120kWの太陽光発電設備を設置致しました。

また、2025年竣工予定の「板橋トラックターミナル新3・4・7号棟（西棟）」にも太陽光発電設備の設置を予定しております。



京浜トラックターミナル



ダイナベース太陽光発電設備設置状況

京浜		板橋		足立		葛西	
設置場所	容量	設置場所	容量	設置場所	容量	設置場所	容量
管理棟	72kW (2012年7月)	管理棟	80kW (2013年7月)	管理棟	65kW (2013年7月)	C棟	122kW (2015年1月)
6号棟	50kW (2010年11月)						
C棟	250kW (2015年5月)	6号棟	120kW (2023年3月)	荷扱場	1,062kW (2016年3月)		
	323kW (2019年11月)						
ダイナベース	1,713kW (2018年7月)						

1. はじめに

2. 環境対策

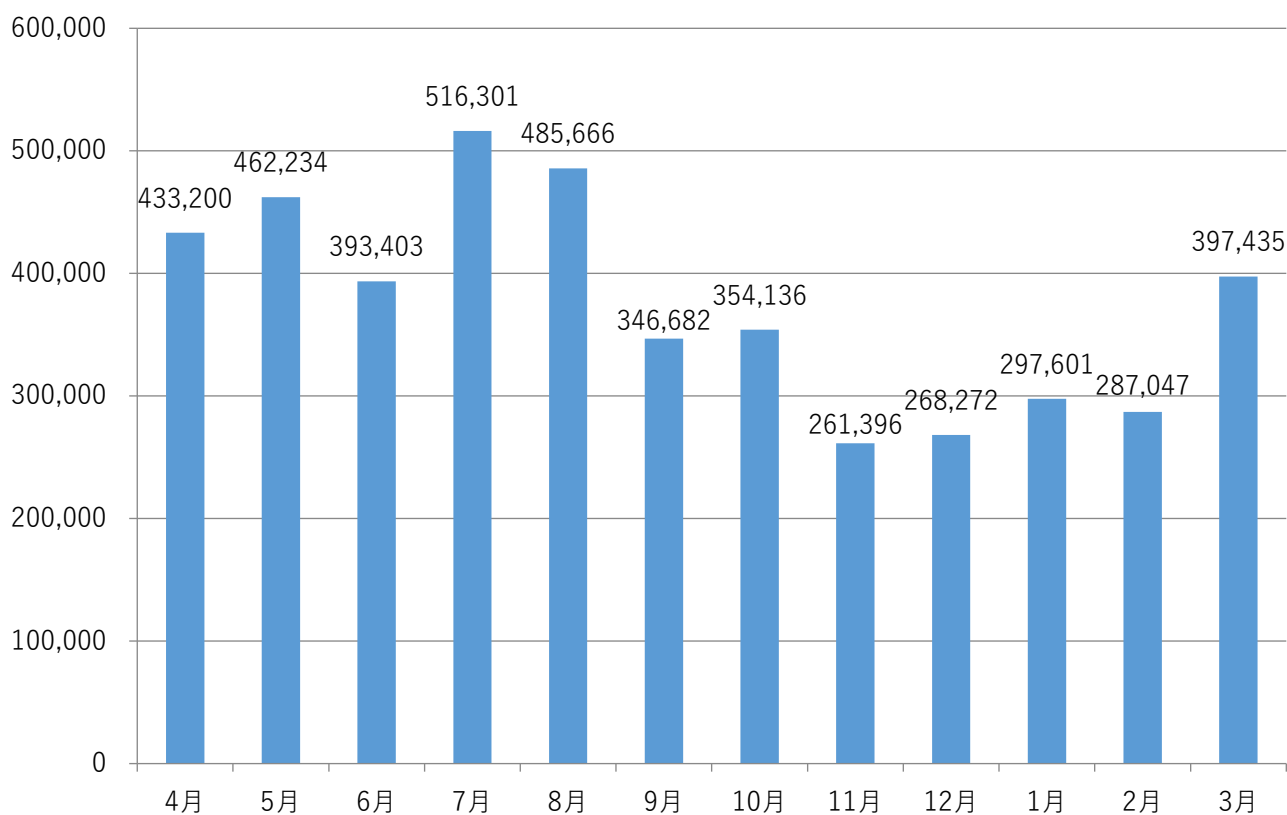
3. 環境活動

4. 新しい取組み

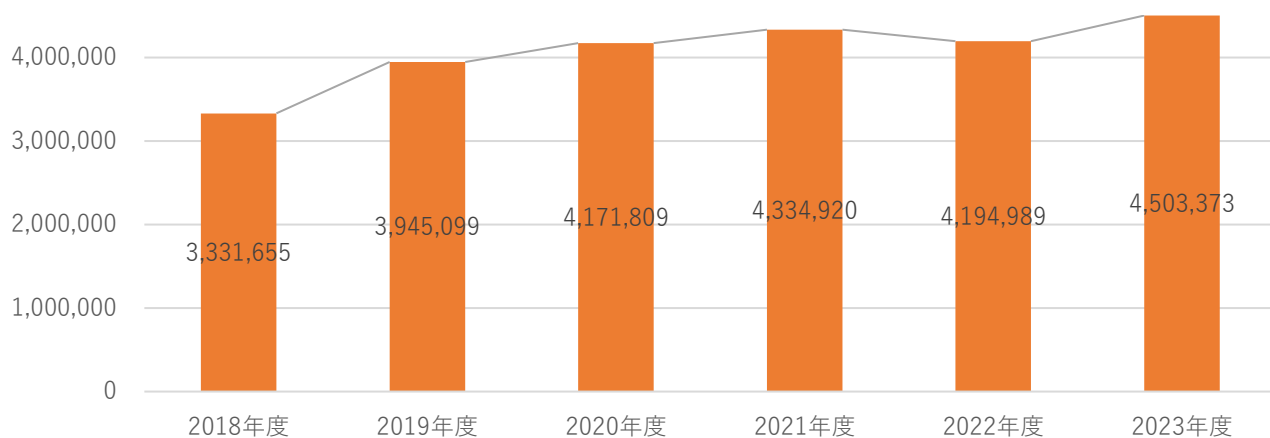
5. 資料

太陽光発電実績

2023年度太陽光発電量（kWh）



年間発電量推移（単位：kwh）



CNGエコ・ステーションの設置

CNGとは圧縮天然ガスのことであり、「**C**ompressed **N**atural **G**as」の頭文字をとり**CNG**と呼ばれています。

CNGは環境的なメリットが多くあり、板橋・足立・葛西の各ターミナルにはCNGに対応できる設備（エコ・ステーション）が整備されています。

	板橋	足立	葛西
設置年月	2021年7月	2005年9月	2003年11月
CNGスタンド面積	129㎡	159㎡	242㎡
ガス圧縮機	250Nm ³	250Nm ³	250Nm ³
蓄ガス器	250L×12本	250L×8本	250L×8本
ディスペンサー	CNG ダブル1基	CNG シングル1基	CNG ダブル1基



板橋トラックターミナル
CNGディスペンサー

近年、液化する必要がないことから大規模な液化プラントの設置の必要のないCNGは、自動車の燃料としてだけでなくクリーンエネルギーとしても注目を集めています。

しかし、一般のガソリンスタンドではCNGに対応することができず、対応できるガソリンスタンドの普及はまだ充分とは言えないのが現状です。

また、整備工場についても同様で、CNG車の整備ができる工場が少なく、車両本体も通常ディーゼルに比べ、車両価格も維持費も高コストであることが現状となっております。



1. はじめに

2. 環境対策

3. 環境活動

4. 新しい取組み

5. 資料

省エネ機器の導入と計画

配送センターや事務所では、CO2排出量の削減を目標に各種設備の更新を図っております。電気・空調・衛生設備を計画的に環境に配慮した設備へ更新することにより、適切な作業環境を維持しながら消費電力等の削減および省エネルギー化を進めております。

2024年度の更新実績

《照明設備》

- ・ JMT京浜B棟
- ・ JMT葛西C棟
- ・ 葛西荷扱場 1 ～ 7 号棟
- ・ 葛西修理工場

L E D 照明に更新することで消費電力が約30%低減しております。

《空調設備》

- ・ JMT京浜B棟

省エネ型空調機に更新することで消費電力が約30%低減しております。

2025年度の更新予定

《空調設備》

- ・ 荷扱場 8 棟



照明更新後



空調・照明更新後

1. はじめに

2. 環境対策

3. 環境活動

4. 新しい取組み

5. 資料

グリーン購入法、FSC認証・間伐材活用素材の採用

当社で実施している新築・改修工事では、引き続き「グリーン購入法」に適合した商品を積極的に採用しております。

また、FSC認証紙や間伐材を活用した紙を使用しての封筒・名刺などの作成も継続して行っております。

その他職員が使用している紙コップを間伐材や竹素材といった環境に配慮した素材のものへ変更し、使用量削減への呼びかけ等を行うなど、身近なところから環境を考えた意識醸成を推進しております。



グリーン購入法



間伐材マーク



FSCミックス



使用している紙コップ(大)
竹素材使用



紙コップ (小)
間伐材使用



FSC認証紙を使用した封筒（社名入り）



間伐材を活用した名刺

1. はじめに

2. 環境対策

3. 環境活動

4. 新しい取組み

5. 資料

脱炭素の取組み

トラックターミナル運営による貢献

当社の4つのトラックターミナルは約90社のテナント様にご利用いただいております。各社の物流拠点として機能しております。物流業界を中心とした多くのテナント様の物流効率化に寄与することで、周辺道路ネットワークの混雑緩和を実現し、走行速度の向上と安定化から温室効果ガス排出量の削減に貢献しております。

当社はこうした事業特性を活かしての環境保全への貢献のみならず、使用エネルギーの脱炭素化や創エネ・省エネそれぞれの施策により、トラックターミナルの運営を通じた脱炭素化社会の実現に貢献してまいります。



1. はじめに

2. 環境対策

3. 環境活動

4. 新しい取組み

5. 資料

ゴミ（一般廃棄物）の減量化と再利用

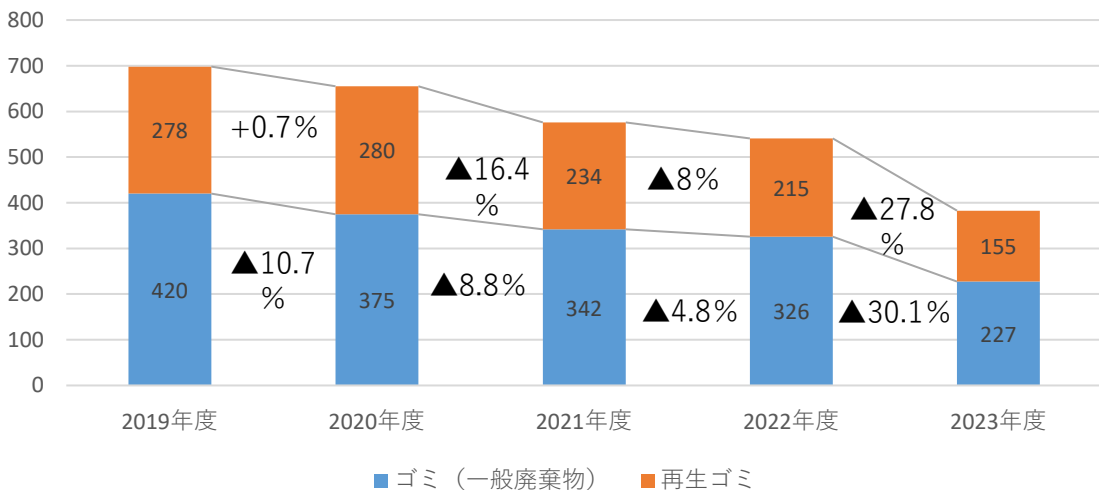
ゴミの減量化

2023年度のトラックターミナルから排出されるゴミ(一般廃棄物)の総排出量は、2019年度から5年連続の過去最少を達成致しました。

2023年度のごみの総排出量は、2022年度と比べ約30%の削減となりました。また、再生ごみの排出量は2022年度と比べ約27%の減少となりました。一般廃棄物に関しては2022年度と比較し約30%の削減を達成しております。

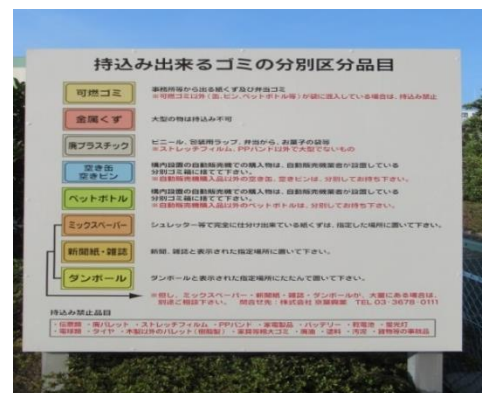
ゴミの排出量推移

(単位：t)



再利用の促進

当社はダンボール、コピー用紙、アルミ、新聞・雑誌、ペットボトル、金属ガラス等を再生ゴミとして分別し、資源の再利用に努めております。



葛西トラックターミナル 分別看板

東京水道～企業の森「JMTの森」保全活動

当社は、東京都水道局が推進している「みんなでつくる水源の森実施計画」に賛同し、2020年8月31日より「東京水道～企業の森（ネーミングライツ）」の協定を締結しております。

東京都水道局は多摩川の水を育むため、多摩川上流域の森林（約25,000ha）を120年にわたり管理しており、将来にわたって水道水源林を守り育て、安全でおいしい水を届けるため、多様な主体と連携した森づくりを行っております。

当社では、本協定にてネーミングライツを設定した水道水源林の一部（約2ha）を「JMTの森」と名付け、東京都水道局と協働で保全活動に取り組んでおります。



当社は2020年度より定期的に、役職員が現地に赴き、「JMTの森」の保全活動を行っております。保全活動の一環として行う間伐作業は、木の成長を促すため、植栽木の密度を調整して成長の芳しくない木を間引く作業です。

今年度は、5月・10月に現地に赴き間伐作業等を行いました。今後も引き続き、「JMTの森」を通して環境保全活動に取り組んでまいります。

JMTの森 活動報告 【令和6年度第1回】

企業の森の活動を行いました！

■日時：令和6年5月27日(月)
 ■参加人数：13名
 ■活動内容：小河内ダム見学
 間伐作業(JMTの森)

日本自動車ターミナル株式会社の社員13名が、5月27日(月)に企業の森の活動を行いました。
 当日は天候が心配されましたが、午前中に小河内ダムを見学した後、午後はJMTの森で間伐作業を無事にを行い、森と水の関わりについて理解を深めていただきました。

小河内ダムの見学を行い、ダム、構造物から水源地の話まで聞いていただきました。

東京都森林組合の方々による指導により間伐作業を実施しました！

間伐作業では、木を切った後、枝や幹の片付けを丁寧に行いました。

みなさん、お疲れ様でした！
 雨が心配される中、天気も回復し、充実した活動でしたね！
 まだ一緒に活動しましょう！

●日本自動車ターミナル株式会社のホームページも是非ご覧ください！
<https://www.jmt.co.jp/>
 ●昨年度までの活動の様子がホームページでご覧いただけます。
<https://www.mizufuru.waterworks.metro.tokyo.lg.jp/create/support/namingrights/>

看板の前で集合写真を撮りました！

東京都水道局HPより引用

1. はじめに

2. 環境対策

3. 環境活動

4. 新しい取組み

5. 資料

東京水道～企業の森「JMTの森」保全活動



看板前での集合写真（10月）



<間伐>作業の説明



<間伐>のこぎりで切り込みを入れる



<間伐>木を倒す様子



「小河内ダム」についての説明
（展望塔）



「小河内ダム」堤体内視察

1. はじめに

2. 環境対策

3. 環境活動

4. 新しい取り組み

5. 資料

節電・アイドリングストップの啓発

節電啓発の活動として、多くの方の目に届くよう、トラックターミナル内のテナント様に「節電啓発ポスター」を配布を行い、トラックターミナル内の節電依頼を継続的に行っております。また、「アイドリングストップポスター」も配布しCO2削減に取り組んでおります。



アイドリングストップ啓発ポスター



節電啓発ポスター

1. はじめに

2. 環境対策

3. 環境活動

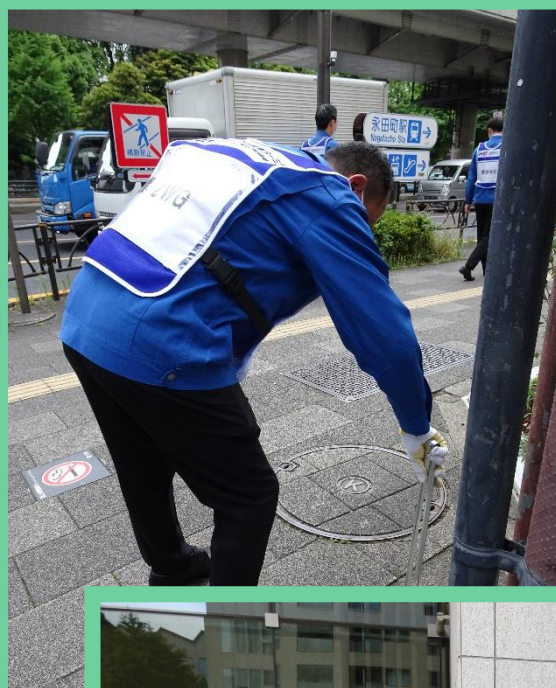
4. 新しい取組み

5. 資料

清掃活動

当社は公共トラックターミナルを運営する会社として社会に貢献できる活動を推進しております。その一環として、本社周辺での清掃活動を定期的に実施しております。

今後は他エリアでの清掃活動にも参加することを検討を進めております。



1. はじめに

2. 環境対策

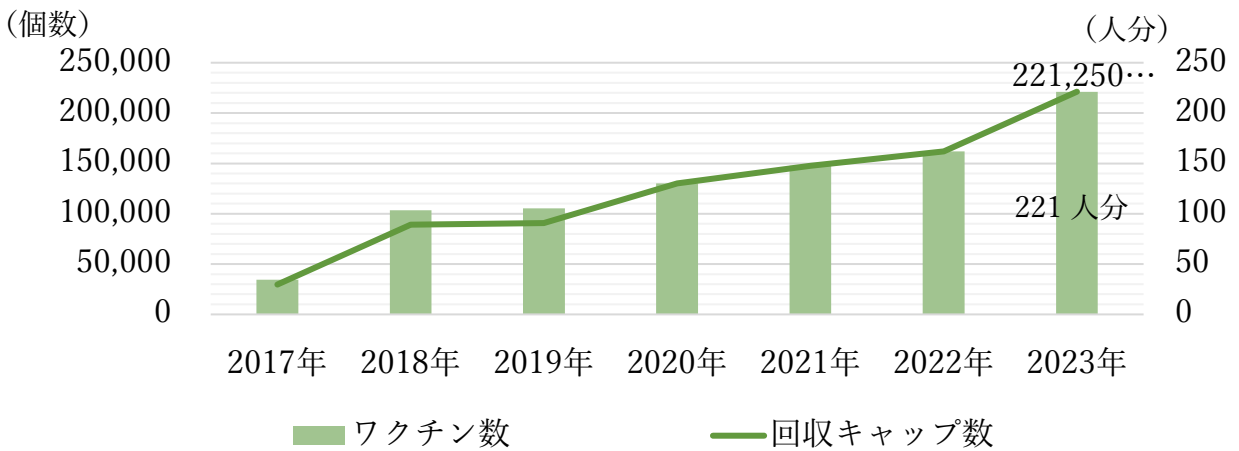
3. 環境活動

4. 新しい取り組み

5. 資料

エコキャップの回収

2016年10月より、エコキャップ(ペットボトルキャップ)の回収を行っております。2017年4月からは本社に加え、各トラックターミナルに回収ボックスを設置し、当社関係職員のみならずターミナルをご利用の方々に協力を呼びかけ、環境への配慮に対する意識向上に努めております。



2023年度は約221,250個のキャップが回収され、過去最高を記録しました。これは通年で回収を開始した、2017年度の記録(29,670個)の約7.6倍にあたります。

回収したペットボトルキャップはリサイクル原料として使用され、その売却益は認定NPO法人を通じ、ワクチンとして世界中の子どもたちへ届けられています。2023年度は約221人分、過去累計では約904人分のワクチンを届けることができました。

今後も本取り組みによる更なる社会貢献に努めてまいります。

ペットボトルキャップ受領書

2023/9/27 282.50 Kg
 価額: 141,250 円
 ワクチン: 141.2 人分
 CO₂: 889.88 Kg

2024/3/11 160.00 Kg
 価額: 80,000 円
 ワクチン: 80.0 人分
 CO₂: 504.00 Kg

ペットボトルキャップ受領書

1. はじめに

2. 環境対策

3. 環境活動

4. 新しい取り組み

5. 資料

使用済みクリアホルダーの回収

プラスチックのリサイクルにおいて、オフィスにおける使用済みのプラスチック製品は、産業廃棄物として扱われ、再資源化や再商品化につながるケースが少ない現状にあります。

トラックターミナルを利用しているアスクル株式会社では、2022年4月より「アスクル資源循環プラットフォーム」を始動させ、使用済みクリアホルダーの再資源化・再製品化・販売を行うスキームを通じて、廃棄物の削減、使用済み製品などの回収・再資源化を促進しています。

当社は本社での回収に加え、各トラックターミナルにも回収BOXを設置し、当社職員だけでなく、トラックターミナルをご利用の方々にも回収の協力を呼び掛けております。2023年度は、取り組みを開始した2022年度の約2.4倍のクリアファイル回収することができました。

【2023年度回収実績】 合計：32.57 Kg
(参考：2022年度回収実績：13.52kg)

回収されたクリアホルダーは再生ペレットに加工し、製品化するマテリアルリサイクルを行っております。また、クリアファイル提供による売却額は環境NGO等に寄付されます。



本社オフィスに設置している回収箱



各トラックターミナルでの設置の様子

1. はじめに

2. 環境対策

3. 環境活動

4. 新しい取り組み

5. 資料

コンタクトレンズ空ケースの回収

当社では、2022年度より「アイシティecoプロジェクト」へ参加しております。「アイシティecoプロジェクト」とはコンタクトのアイシティを運営するHOYA株式会社アイケアカンパニーが実施している取組みで、コンタクトレンズの空きケースを回収・再資源化することで、CO₂排出量の削減に貢献する取組みです。

2023年度は、コンタクトレンズ空ケース約3.18kgを回収することができました。2024年度からは、各トラックターミナルにも回収ボックスを設置し、施設利用者の方へも回収の協力を呼び掛けております。

回収したケースはリサイクル業者に買取られ、その収益は日本アイバノク協会へ全額寄付されています。



本社オフィスに設置している
回収BOX



各トラックターミナルでも回収を開始

HOYA株式会社 アイケアカンパニー アイケア本部 様中				
環境化成株式会社 〒110-8555 東京都港区赤坂1-17-12 環境本部 環境課 03-3499-3800 代表 様へ				
コンタクトレンズ空ケース 重量報告書				
ご依頼頂きましたコンタクトレンズ空ケースの数量を計量いたしましたので、重量を報告します。 ご確認をお願いいたします。 それでは、今後ともよろしくお願い申し上げます。				
項目	ご依頼内容	品名	数 量 (kg)	備 考
2023年度12月分	日本郵政株式会社ターミナル株式会社	コンタクトレンズ空ケース	3.18	

回収重量報告書

ペーパーレス化の促進

ペーパーレス化に向けた取組み

環境保全に向けた取組みの一環として、2023年度下期からコピー用紙の購入枚数の削減目標を設定し、対前年同期比で15%の削減を目標に掲げてペーパーレス化の取組みを推進しております。

具体的な取組みとして、職員のPCをノートPCに切り替え、会議時は原則として資料をデータ化し共有することや、資料の保管方法を全部署で見直す等の各種電子化の取組みを実施致しました。

また、本社の印刷機を一部集約した上で、職員向けのペーパーレスに関する啓発活動を定期的に実施致しました。

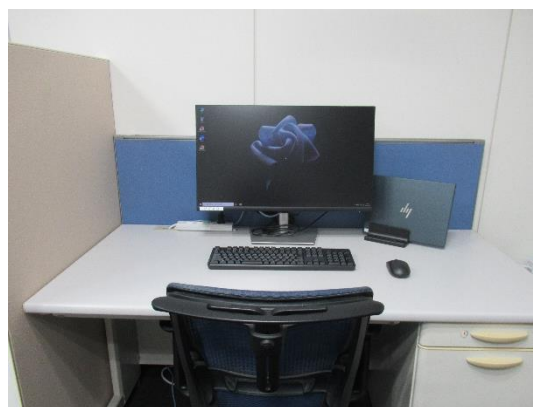
削減実績

2023年度下期から2024年度上期までの1年間でのコピー用紙の削減実績は約19万3千枚となり、目標（対前年比15%削減）を約2倍上回る33%の削減を達成致しました。

当社は今後も各種電子化ソフトの導入や継続しての社内啓発活動により、更なるペーパーレス化を推進してまいります。



ペーパーレス会議の様子



職場のノートPC化

水素ステーションの設置

水素の活用は利用時にCO2を排出しないことから、脱炭素社会実現のキーテクノロジーとして期待されています。当社は2024年4月に京浜トラックターミナルにおいて水素燃料車に対応できる設備（水素ステーション）を設置致しました。

	京浜
設置年月	2024年4月
敷地面積	2,463㎡
供給方式	液化水素貯蔵 オフサイト型
供給能力	60kg/h



水素ディスペンサー

水素ステーションとは、環境に優しい「燃料電池自動車」の燃料である水素を供給する施設です。燃料電池自動車は、水素と酸素の化学反応によって発電し、モーターを動かして走行します。燃料電池については、国内各地のバス路線における導入や、トラック、フォークリフトなどの車両開発が進められています。



水素ステーション

1. はじめに

2. 環境対策

3. 環境活動

4. 新しい取り組み

5. 資料

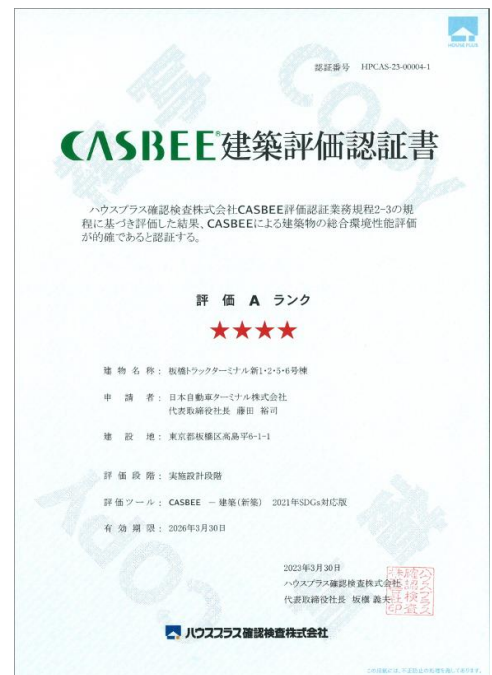
CASBEE Aランクの取得

2023年5月に供用開始した「板橋トラックターミナル新1・2・5・6号棟（東棟）」では、省エネや省資源・リサイクル性能といった環境負荷削減の側面はもとより、室内の快適性や景観への配慮をすることで、建築物の総合的環境評価研究委員会の性能評価システムであるCASBEEでAランクを取得しました。また、2025年竣工予定の「板橋トラックターミナル新3・4・7号棟（西棟）」もCASBEE取得にむけ計画を進めております。

既存施設についても省エネルギー対策やエネルギー利用の効率化に取り組み、環境への配慮と環境負荷低減によって生じる環境価値の向上に努めて参ります。



JMT板橋新1・2・5・6号棟



JMT板橋新1・2・5・6号棟
建築評価認証書（2023）

「CASBEE（建築環境総合性能評価システム）」とは

建築物の環境性能で評価し格付けする手法で、省エネルギーや環境負荷の少ない資機材の使用といった環境配慮はもとより、室内の快適性や景観への配慮なども含めた建物の品質を総合的に評価するシステムです。

評価結果は「Sランク（素晴らしい）」から、「Aランク（大変良い）」「B+ランク（良い）」「B-ランク（やや劣る）」「Cランク（劣る）」という5段階のランキングが与えられます。

1. はじめに

2. 環境対策

3. 環境活動

4. 新しい取組み

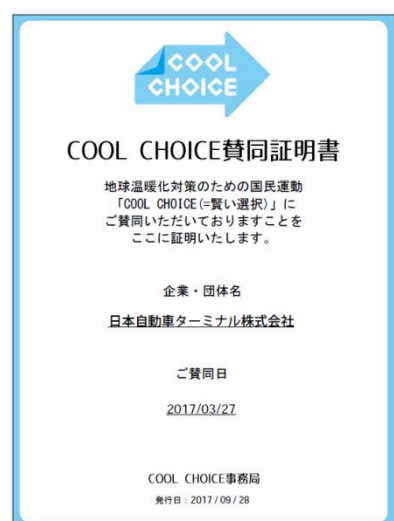
5. 資料

環境省「COOL CHOICE」への賛同

日本は、2050年カーボンニュートラル宣言を行い、温室効果ガスの排出を2030年度に2013年度比で46%削減、さらに50%削減の高みに向けて挑戦を続けることを表明しています。なかでも、環境省が推進する国民運動「COOL CHOICE」は、CO₂などの温室効果ガスの排出量を削減するため、日々の生活の中で、脱炭素社会づくりに貢献するあらゆる「賢い選択」をしていこうという取り組みです。

当社は、2017年3月27日より本活動に賛同し、夏期は冷房を控えめにしてノーネクタイ・軽装での勤務を行う「COOL BIZ（クールビズ）」を、冬期は暖房に頼りすぎず防寒対策を上手に取り入れ快適に働く「WARM BIZ（ウォームビズ）」を実施しております。

また、決められた時間での空調機・照明の一斉OFF設定、ノー残業デーの実施等により、オフィスでの電気使用量の削減にも取り組んでいます。



COOL CHOICE 賛同証明書



クールビズ・ウォームビズ実施社内ポスター

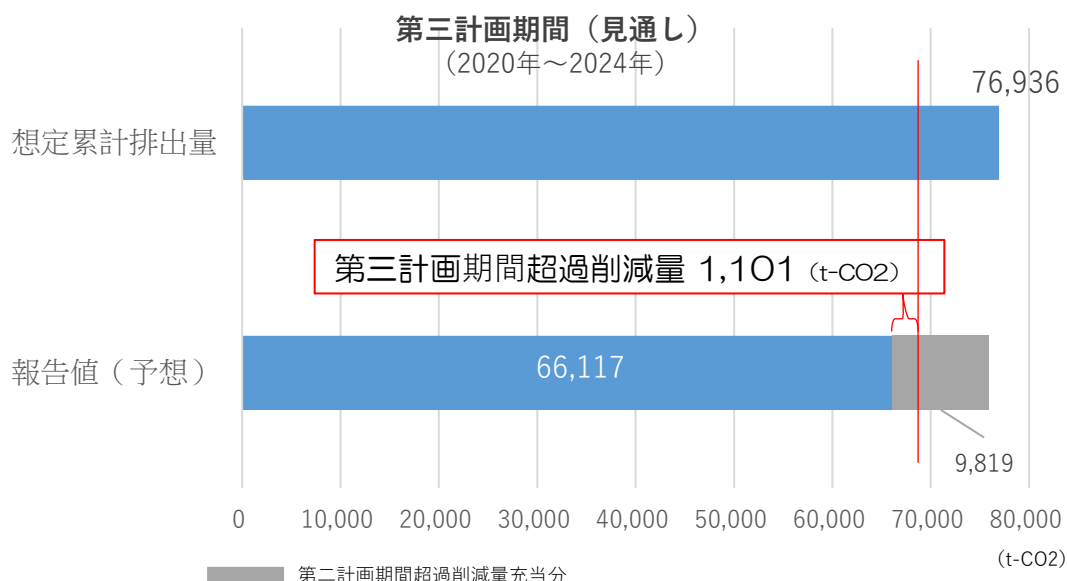


省エネ法（エネルギー使用合理化等に関する法律）

当社はトラックターミナル全体の年間のエネルギー使用量の合計が1,500kl（原油換算）以上となる為、省エネ法を所管する経済産業省より特定事業者として指定されております。そのため、エネルギー管理統括者の選任、中長期計画書及び定期報告書の作成が義務付けられており、適切な届出を行っております。

東京都環境確保条例 （都民の健康と安全を確保する環境に関する条例）

京浜・葛西トラックターミナルは、年間のエネルギー使用量の合計が1,500kl(原油換算)以上となる為、東京都環境確保条例に基づく、温室効果ガス総量削減義務の対象となり、これまで第一、第二計画期間ともに、削減目標を達成してまいりました。第三計画期間（2020年度～2024年度）においても温室効果ガス総量削減に資する様々な取組みの成果により、削減義務を達成することができる見通しとなっております。



現在は第四計画期間（2025年度～2029年度）への移行に向けて、温室効果ガス総量削減に資する新たな取組みの検討を進めております。更なる温室効果ガスの排出削減に向け各種取組みを推進してまいります。

1. はじめに

2. 環境対策

3. 環境活動

4. 新しい取り組み

5. 資料

JMT近年の環境保護への取り組み～ハード面～

実施年	取り組み内容
2001年	・ 葛西 CNGスタンド完成 (以降、拠点拡大)
2010年	・ 京浜6号棟 太陽光発電設備設置
2011年	・ 震災を契機に節電対策として遮熱塗装を導入
2012年	・ 京浜管理棟 太陽光発電設備設置 ・ 足立荷扱場 LED照明設置
2013年	・ 板橋、足立管理棟 太陽光発電設備設置
2014年	・ 葛西C棟 太陽光発電設備設置 ・ 京浜E棟、葛西D棟 LED照明設置
2015年	・ 京浜C棟 太陽光発電設備設置 ・ 足立荷扱場 太陽光発電設備設置
2017年	・ 京浜立体駐車場 LED照明設置
2018年	・ 京浜ダイナベース 太陽光発電設備設置
2021年	・ 京浜、足立、葛西 荷扱場LED照明設置
2022年	・ 京浜B棟、4TT屋外灯 LED照明設置
2023年	・ 板橋新1・2・5・6号棟 (東棟) 太陽光発電設備設置 ・ 京浜A棟・6号棟 事務室空調省エネ型へ更新 ・ 葛西B棟 LED照明設置・衛生設備省エネ型へ更新
2024年	・ 京浜 水素ステーション完成



太陽光発電設備



CNGスタンド



水素ステーション

1. はじめに

2. 環境対策

3. 環境活動

4. 新しい取組み

5. 資料

JMT近年の環境保護への取組み～ソフト面～

実施年	取組み内容
2004年	・ 木製廃パレット共同回収開始
2005年	・ 地球温暖化対策計画書提出
2011年	・ 震災を契機に節電対策として遮熱塗装を導入
2016年	・ エコカップ回収運動開始
2017年	・ 京浜C棟、ダイナベース 日本政策投資銀行より「Green Building認証」 を5つ星評価で取得 ・ 京浜ダイナベース 「CASBEE建築評価認証 Aランク」を取得
2019年	・ 環境物流啓蒙賞受賞 ・ ライトダウンキャンペーン実施 ・ 「チームもったいない」への参加
2020年	・ エコバッグの作成 ・ 本社周辺清掃 ・ 「東京水道～企業の森」協定締結 ・ 「ゼロエミッション東京」へCO₂超過削減量寄付
2021年	・ 葛西A棟 「CASBEE建築評価認証 Aランク」を取得 ・ プラスチック・スマートキャンペーンへの登録
2022年	・ 「アスクル資源循環プラットフォーム」への参加
2023年	・ 板橋1・2・5・6号棟 「CASBEE建築評価認証 Aランク」を取得 ・ ノートPCへの切替を機にペーパーレス化推進 ・ 脱炭素化プロジェクトを始動
2024年	・ 全拠点でのコンタクトレンズケース回収開始



発行日 2024年12月

発行 日本自動車ターミナル株式会社
東京都千代田区平河町二丁目7番9号
(代表)03-3556-0781
<https://www.j-m-t.co.jp/>